

教育委員会主催教育シンポジウム

指導要領と大学入試

日時：平成15年3月25日(火) 午後2時15分より午後4時30分まで
会場：東京大学駒場キャンパス 13号館 1323教室

パネラー (50音順)

岡本 和夫 氏 (東京大学) 「数学、理科の教育と入学試験」

佐藤 和孝 氏 (東大附属中等学校)

「大学入試は高校の数学を変えられるか？」

長岡 亮介 氏 (放送大学)

「多様化という名の多極化、統一という名の混沌
ー「時代」の分水嶺をいかに踏み進むか」

村田 緯和雄 氏 (都立新宿高校) 「高校から大学入試に望むこと」

アッピール

平成15年度から高等学校では新指導要領に基づく教育が始まり、平成18年度大学入試ではその課程で学習した人達が受験します。これに対して、各大学では来年度中に平成18年度の入学試験の大枠を発表するものと思われま

す。そのときに数学の入学試験はどうすべきかについて、様々な立場の方々から意見を聞いて検討したいと考えこのシンポジウムを企画しました。

大学入試は、受験生にとっては勿論、実施する側にとっても最も重大な問題です。

日本数学会の中にも、「入試は受験生に対する出題大学のアッピールである」、「日本の学力維持の基本線を示すという意味もある」、「入試を変えるべき」、「いや、むしろ変に
いじらない方が良い」等々、さまざまな意見があります。

とくに、今回の学習指導要領の改定は、個別入試のあり方を大きく変える可能性もあります。

また、指導要領は、入試のマキシムラインなのか、ミニマムラインなのかを始め様々な問題が生じています。この改定に各大学では数学の個別入試でどのように対応しようとしているのでしょうか、また、その対応で問題がないのでしょうか。

このような問題について、パネルディスカッションを開催いたします。

数学会会員以外の方を含めて、多くの関係者、特に高等学校の現場の先生方にもご意見を伺いたいと思っております。ぜひご参加ください。

数学会開催中の催しですが、参加は無料で自由です。また、質疑や意見を言う時間もできるだけ多く取りたいと考えています。質疑やご意見を歓迎します。

問い合わせ先

日本数学会教育委員会委員長 (岡部恒治)